

教養総合科目『食べる』が人気

歯学部が全学に提供している教養総合科目「食べる - そのメカニズム -」の人気が高く、5月19日の新潟日報夕刊の1面トップに取り上げられた。

この総合科目は歯学部が提供し、どの学部の学生でも受講できるもので、4年前に始まった。「食べるということを学生自身が考える」という視点で、「食べる」ということをさまざまな面から講義する。前期の15回の講義は、「おっぱいを飲む」、「ビールの味」、「プディングの味わい方」、「日本人のルーツ」、「食べることと老化」など1回ごとに演題が異なる。歯学部外からの講師も、教育人間科学部の小谷スミ子教授や、北方博物館の伊藤文吉氏、ワインのカーブドッチ社長の落希一郎氏など多方面にわたっている。

当初から学生の注目を集めたが、今年は100人の定員に対して1000人の希望者が殺到した。例年歯学部の学生は抽選に弱いですが、今年はたった1人しか受講できなかった。毎回レポートを提出させているが、出席率は90%を超えており、1回ごとに変わるテーマに、学生が強く興味を引かれて、次の講義にも期待を持って聴講に来ているのが分かる。



6月25日にこの総合講義のコンパを行ったが、2割近い学生の参加があり、また去年の受講者が数人、「食べる」のコンパの開催を聞きつけてやってきた。コンパでは「食べる」をテーマに、いろいろな学部の学生がにぎやかに交流した。

